

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第45週 2024年11月4日（月）～2024年11月10日（日）2024年11月14日作成

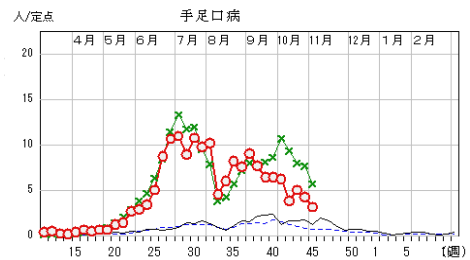
☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）手足口病

第45週の報告数は140人で、前週より47人少なく、定点当たりの報告数は3.18であった。

年齢別では、1歳（37人）、2歳（25人）、4歳（22人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（15.50）、県北保健所（9.33）、壱岐保健所（5.50）であった。

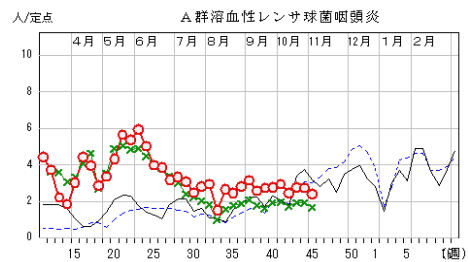


（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第45週の報告数は105人で、前週より15人少なく、定点当たりの報告数は2.39であった。

年齢別では、10～14歳（26人）、7歳（11人）、4歳（9人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（11.40）、対馬保健所（8.00）であった。

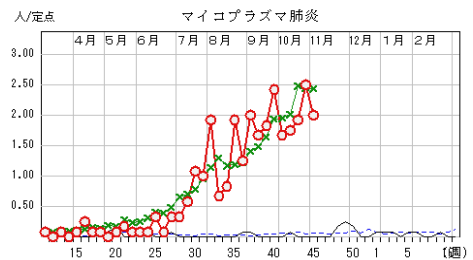


（3）マイコプラズマ肺炎

第45週の報告数は24人で、前週より6人少なく、定点当たりの報告数は2.00であった。

年齢別では、5～9歳（9人）、10～14歳（7人）、0～4歳（4人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（4.67）、佐世保市保健所（4.00）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
 × 当年(全国) 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第45週の報告数は140人で、前週より47人少なく、定点当たり報告数は3.18でした。2週続けて減少しましたが、警報終息基準値「2.0」を超えており、6月中旬より21週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中6保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第45週の報告数は105人で、前週より15人少なく、定点当たりの報告数は2.39でした。地区別にみると県南地区（11.40）、対馬地区（8.00）は、警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【マイコプラズマ肺炎】

第45週の報告数は24人で、定点当たり報告数は2.00でした。地区別では、長崎地区（4.67）、佐世保地区（4.00）が他の地区より多くなっています。

本疾患は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛沫感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる3月から11月に増加します。

2024年第45週までに、県内では12例のSFTS、3例のつつが虫病、22例の日本紅斑熱の患者が報告されています。つつが虫病は例年11月に報告が多く、日本紅斑熱も2024年11月に3例の報告が あっていますので、注意が必要です。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

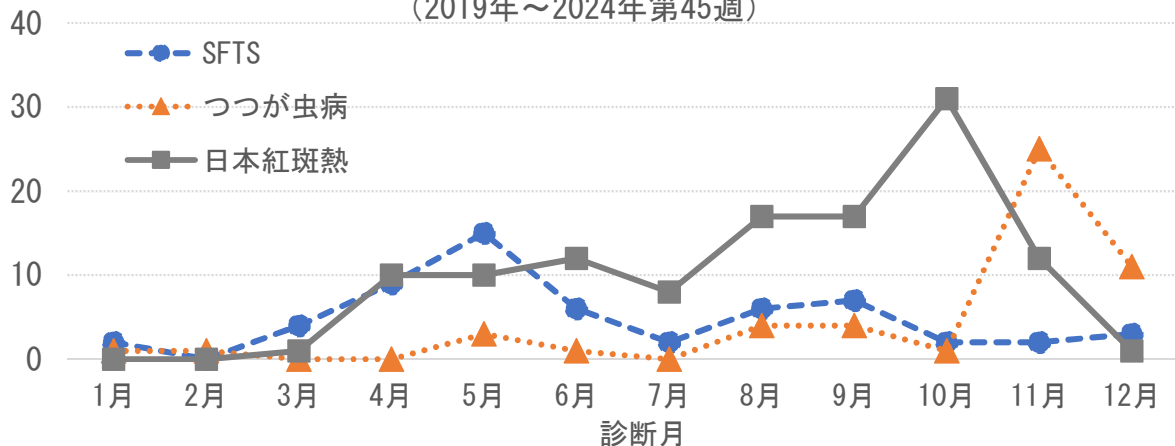
発生状況、感染対策について、長崎県感染症情報センターホームページ内「[ダニ媒介感染症](#)」にも掲載しています。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
SFTS	8 (8)	6 (6)	6 (6)	13 (12)	13 (10)	12
日本紅斑熱	15 (14)	18 (18)	28 (28)	22 (22)	14 (13)	22
つつが虫病	1 (0)	11 (3)	14 (5)	7 (1)	15 (7)	3

※（ ）は第45週までの発生件数

(人) 長崎県におけるダニ媒介感染症の月別累計患者報告数 (2019年～2024年第45週)



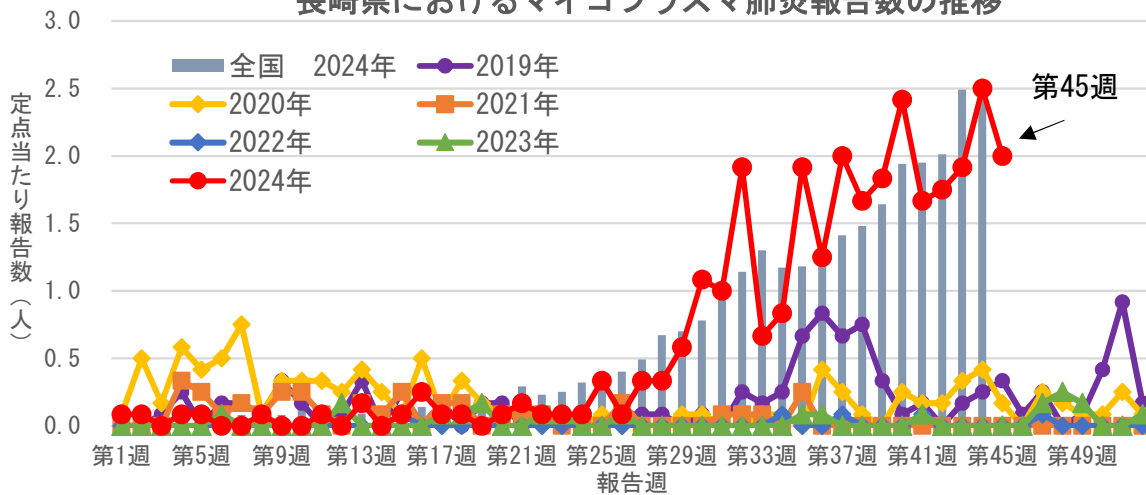
★トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年第45週の定点当たり報告数は「2.00」で、前週より減少しました。2024年は7月中旬から報告数が増加し、前週（第44週）には、現行の調査方法となった平成11年以降最多の定点当たり報告数（2.50）となりました。地区別では、長崎地区（4.67）、佐世保地区（4.00）が多くなっています。年代別では、5～9歳（9人）、10～14歳（7人）、0～4歳（4人）の順に多くなっています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

長崎県におけるマイコプラズマ肺炎報告数の推移

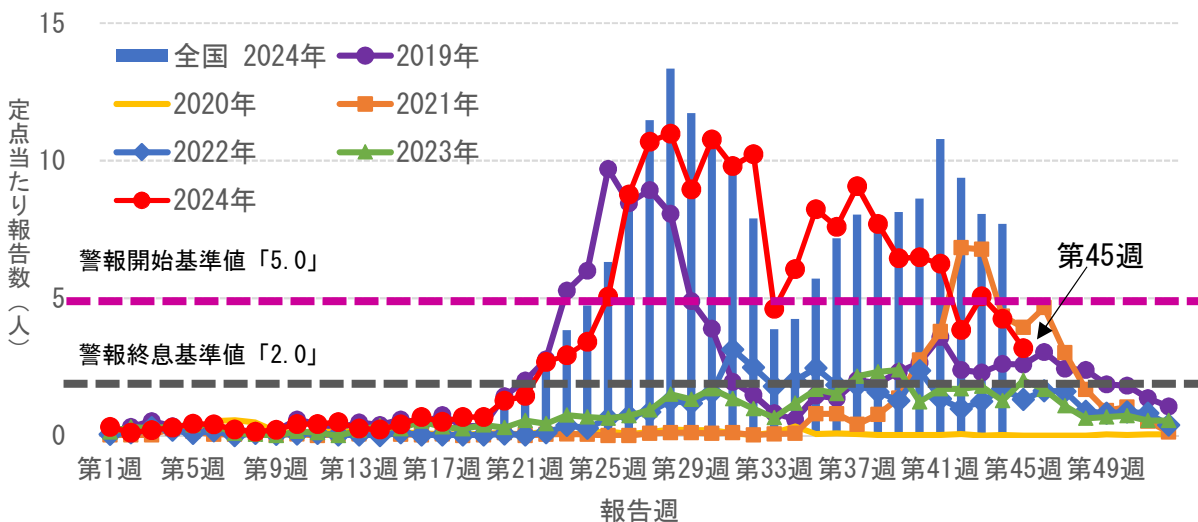


★トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第45週の定点当たり報告数は「3.18」でした。2週続けて減少しましたが、警報終息基準値「2.0」を下回らず、警報レベルの報告数が21週間継続しています。地区別でも、10保健所のうち、西彼、県南、五島、上五島を除く6保健所で警報レベルの報告数となっています。今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



◆全数届出の感染症

- 2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（70代・1名） 女性（10歳未満・1名）
- 4類感染症：日本紅斑熱 患者 男性（70代・1名） 女性（70代・1名、80代以上・1名）
- 5類感染症(全数把握対象)：報告なし

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第40～45週、9/30～11/10)

疾患名	定点当たり患者数					
	40週	41週	42週	43週	44週	45週
	9/30～	10/7～	10/14～	10/21～	10/28～	11/4～
インフルエンザ	0.86	1.10	1.23	1.44	1.53	0.97
新型コロナウイルス感染症	1.81	1.29	0.87	0.99	0.69	0.70
RSウイルス感染症	0.16	0.16	0.05	0.05	0.02	
咽頭結膜熱	0.18	0.20	0.16	0.09	0.20	0.18
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.77	2.95	2.45	2.77	2.73	2.39
感染性胃腸炎	1.48	1.50	1.23	1.23	1.68	1.09
水痘	0.18	0.09	0.09	0.02	0.09	0.16
手足口病	6.48	6.25	3.84	5.07	4.25	3.18
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.05	0.07	0.11		0.16	0.05
突発性発しん	0.25	0.27	0.30	0.18	0.18	0.14
ヘルパンギーナ	0.45	0.48	0.48	0.59	0.41	0.16
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02		0.02	0.02	0.05	
急性出血性結膜炎		0.13				
流行性角結膜炎	0.25	0.75	0.38	0.63	0.50	0.38
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.08					
マイコプラズマ肺炎	2.42	1.67	1.75	1.92	2.50	2.00
クラミジア肺炎（ヤム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0.25				0.08

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第45週、11/4～11/10) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.97	0.64	2.00	1.00	0.67	1.18	0.25		1.00	0.33	
新型コロナウイルス感染症	0.70	1.00	0.53	0.33	0.17	0.45	1.00	0.25	0.50		3.67
RSウイルス感染症											
咽頭結膜熱	0.18		0.60		0.25	0.14					
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.39	0.67	0.80		0.75	1.86	11.40	0.33	0.67	0.50	8.00
感染性胃腸炎	1.09	2.83	0.80		1.25	1.00	0.40	3.00			
水痘	0.16		0.30			0.43	0.20				
手足口病	3.18	4.17	2.20	5.50	0.50	2.00	0.20	9.33	1.67	0.50	15.50
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.05	0.33									
突発性発しん	0.14	0.33				0.29		0.67			
ヘルパンギーナ	0.16				0.25	0.29		1.33			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.38						3.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	2.00	4.00	4.67	2.00		2.00		1.00		1.00	
クラミジア肺炎（ヤム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08					1.00					